

**Citation:** Thompson RL, Summerbell CD, Hooper L, Higgins JPT, Little PS, Talbot D, Ebrahim S. Dietary advice given by a dietitian versus other health professional or self-help resources to reduce blood cholesterol. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 3. Art. No.: CD001366. DOI: 10.1002/14651858.CD001366.

**CRG名:** Effective Practice and Organisation of Care

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 23 May 2003

**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 4; -

**背景:** 血中コレステロール平均値は、冠動脈性心疾患のリスクの重要な決定因子である。食事法によって血中コレステロールの低下が可能である。栄養士は食事指導を提供するための訓練を受けているが、現実的な理由から他の医療専門家や自助資源によって提供される場合もある。

**目的:** 成人の血中コレステロールの低下について、栄養士が行った食事指導の効果を他の医療専門家または自助資源の活用との比較で評価する。

**検索戦略:** コクラン・ライブラリ(2002年第3号)、EPOC trial register(2002年10月)、MEDLINE(1966年~2002年9月)、EMBASE(1980年~2002年9月)、Cinahl(1982年~2002年8月)、Human Nutrition(1991年~1998年)、Science Citation Index、Social Sciences Citation Indexを検索し、栄養および心疾患に関する学会大会論文集をハンドサーチし、当該分野の専門家に問い合わせた。

**選択基準:** 栄養士が行った食事指導を他の医療専門家または自助資源と比較しているランダム化試験。主要アウトカムは、栄養士群と他の介入群との間の血中コレステロール値の差とした。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自にデータを抽出し、試験の質を評価した。

**主な結果:** 13の比較を含む12件の研究を含めた。4件の研究は栄養士と医師との比較、7件では自助資源との比較、1件の研究のみで栄養士と看護師との比較および栄養士とカウンセラーとの比較が行われていた。栄養士の指導を受けた参加者は、医師の指導のみを受けた患者よりも血中コレステロール値が顕著に減少した(-0.25mmol/L(95%CI-0.37, -0.12mmol/L))。栄養士と自助資源との間で血中コレステロール値の変化に統計学的有意差はなかった(-0.10mmol/L(95%CI-0.22, 0.03mmol/L))。HDL-コレステロールに対して栄養士と看護師との比較では栄養士群で顕著な減少(-0.06mmol/L(95%CI-0.11, -0.01))、体重に対しては栄養士とカウンセラーとの比較で栄養士群に顕著な減少(-5.80kg(95%CI-8.91, -2.69kg))がみられたことを除き、いずれの比較でも副次的アウトカムに統計学的有意差は検出されなかった。

**レビューアの結論:** 短期から中期的には栄養士の方が医師よりも血中コレステロール値の低下に良好であったが、これらが自助資源よりも優れているとするエビデンスはなかった。栄養士の方が看護師よりも良好なアウトカムをもたらすとするエビデンスもなかった。

研究の質は良好でなく、解析は少数の試験に基づいていたため、これらの結果は慎重に解釈すべきである。

(監訳 相原守夫)

翻訳公開日: 08年3月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

